

## 信頼される稲・麦種子生産の推進

### 1 はじめに

兵庫西農協しそ種子生産組合は、1949年に旧山崎町の1集落が麦種子生産の委託を受けたことに始まり、現在では、5集落で水稻・麦種子合わせて約90haと県下最大の指定採種ほ場にまで発展した。

その中で、最近では品種多様化に合わせた栽培管理が要求される一方で、生産者の世代交代時期を迎え、種子生産に対する意欲や意識にばらつきが見られるようになった。

そこで、生産者に対して優良種子生産への対応について意識改善を行った取組を紹介する。

### 2 普及活動の概要

農協担当者と一緒に集落別栽培講習会等を開催しながら、優良種子生産技術を体系化した。

#### (1) 「純正」な種子への対応

「純正」確保に必須である異型抜きを3回以上実施しているが、この異型抜きは、2～3人のグループで行うように誘導し、個人によるばらつきを減らすように工夫した。

複数品種を生産する水稻では、ほ場への品種割当ては前年と同じ品種を集団化するように努め、どうしても異品種の栽培になる場合は、出穂期の差が大きい品種を選ぶとともに収穫直後の秋すきと春すきを実施し、落ち生え対策を徹底した。

#### (2) 「健全」な種子への対応

種子伝染性病害をはじめ病害虫対策として、基幹防除は無人ヘリコプターによる一斉防除を行っている。また、麦では排水対策を徹底して生育の安定に、水稻では緩効性肥料による側条施肥の統一により生育の安定に努めているが、生育不良等のほ場では穂肥診断を実施し適正管理に努めている。さらに水稻

では、充実した種子になるように中干しや落水時期など適正な水管理にも努めている。

#### (3) 「良質」な種子への対応

子実・糊殻に病斑の出たほ場、生育の過剰や不良、倒伏の部分は、ほ場審査により部分的に別収穫するように指示している。合格したほ場の種子は、比重選別機にかけ良質な種子の生産に努めている。

#### (4) 計画的な収穫

種子センターと調整しながらほ場ごとに刈取り予定日を決めて計画的な収穫を実施している。特に小麦では、天候不順期の晴間を縫って刈取りできるオペレーター体制を確立している。

### 3 活動の成果と種子組合の変化

最近の異常気象が続く中で、3か年の収量は水稻種子10a当たり442～460kg、小麦種子10a当たり226～248kgと安定してきた(表)。

農業機械の専任オペレーターの高齢化に対しては、今後新規オペレーターを掘り起こし、新しい担い手として育成強化することが決定され、早速種子組合直轄オペレーター部会を設立した。普及センターでは今後年間安定就労できる体制を組んでいき、将来的には種子組合の法人化へ誘導していく。

横山 賢治(山崎農業改良普及センター)  
(問い合わせ先 電話:0790-62-9561)

表 生産改善の成果

年 度		採種面積(ha)	契約数量(t)	出荷数量(t)	達成率(%)	10a当たり(kg)
2002年	小麦	27.0	54	66	122	244
	水稻	57.7	231	266	115	460
2003年	小麦	25.5	51	58	113	226
	水稻	64.0	256	283	111	442
2004年	小麦	25.0	50	62	124	248
	水稻	64.0	256	290	113	453

小麦品種「シロガネコムギ」  
水稻品種「キヌヒカリ他7品種」